

【治安情報】ペロオリゾンテ

ペロオリゾンテ市でも凶悪犯罪が多発しています。特に、ワールドカップ開催中は、観光客を標的とした犯罪が増加するおそれがありますので、安全に留意して、楽しい旅行にしてください。

ペロオリゾンテの緊急連絡先

・ リオデジャネイロ総領事館 +55-21-3461-9595

(夜間・休日も対応有)

・ 警察 (英語可) 190

日本の110番と同様です。W杯開催期間前後は英語等の外国語の対応が準備されます。市内各所に「KOBAN」と標記された交番もあります。

★犯罪の傾向★

【1】セントロ地区北部のバスターミナル付近及び 市立公園(Parque Municipal)周辺の路上で週末・夜間を中心にひったくり、強盗事件が多発しています。

【2】日本で発行を受けたキャッシュカードを銀行のATMで使用した際にカードの磁気情報が盗まれ、偽造カードによって口座の現金を引き出される事件が続発しています。

防衛策

【1】日本で発行されたキャッシュカードはスキミングの対象として狙われています。空港や観光地周辺など、旅行者が頻繁に使う場所のATMは危険ですので、使用しないようにしてください。

【2】現金、クレジットカード、キャッシュカード等はひとまとめにせず、分散保管してください。犯罪遭遇を想定して、その後の旅行を続けられるようにしておくことが重要です。

【3】市内の移動はタクシーの利用をお勧めします。また徒歩で行動する場合はグループで歩き、周囲への警戒を怠らないで下さい。

【4】アクセサリ等は身に付けず、手荷物は最小限度にし、カメラ等はカバンの中に入れて下さい。

【5】スタジアムへの移動はシャトルバスの利用をお勧めします。最寄りの発着所をよく調べて利用ください。

【治安情報】ペロオリゾンテ

【6】万一強盗に遭ったら絶対に抵抗しないで下さい。

【7】以下の治安情報詳細に目を通して、犯罪者に襲われたときにどのように行動するか想定してください。

治安情報詳細（ペロオリゾンテ）

ペロオリゾンテ市はブラジル国内の他の大都市と比べて比較的治安が良好とされていますが、人口当たりの犯罪発生率を日本と比較した場合、殺人は30倍以上、強盗は100倍以上です。セントロ地区でも路上強盗、ひったくりが多発していますので、自分が被害に遭うかもしれないという自覚と警戒心を持ってください。手持ちの金品強奪を目的とする犯罪がほとんどですので、冷静に対応し、相手に抵抗する素振りを見せないことが重要です。以下の注意事項を参考にして、十分注意してください。

■空港

- ・ペロオリゾンテ国際空港では、置き引きが多発しています。空港チェックインカウンターや、タクシーやバスを待ち中に、荷物から目を離した隙に足元のカバンが盗まれたり、買い物中のキャリーの上からバッグを持ち去られる被害が発生しています。
- ・空港内等で、見ず知らずの人から荷物等を預からないでください。麻薬密売人が麻薬を国外に持ち出すために他人を利用することがあります。
- ・空港に設置された銀行ATMでカードの磁気情報を盗まれる事例が頻発しています。空港ではATMを使用せず、当面必要な現金はドル又はユーロを持参して両替することをお勧めします。

■ホテル

- ・フロントやロビーで、キャリーの上のバックを盗まれたり、レストランでバッグを椅子の背もたれに掛けて置いて置き引きされる被害が発生しています。一流ホテルといえども安心はできませんので、荷物から目を離さないでください。
- ・貴重品等（旅券を含む）は、室内のセーフティボックスを利用するか、フロントに預ける等して管理してください。

■外出時

- ・ホテル等の周辺には観光客を狙った強盗やひったくり犯が徘徊していることがあるので、出かける際に不審者がいないか周辺を観察してください。歩行中に時々背後を振り返ることは、犯罪者に対して警戒心を持っていることを示すことにつながり、有効です。不審者に気づいた場合には近くの商店などに一時的に身を寄せてください。

【治安情報】ペロオリゾンテ

- ・必要以上の現金や旅券等の貴重品は持ち歩かないでください（外出中は旅券のコピーを持って歩くと安心です）。現金やカードは、被害に遭った場合を想定して、分散して所持しましょう。
- ・可能な限りグループで行動してください。
- ・外出の際、カメラや携帯電話はなるべく人目に付かないように携帯してください。写真撮影は周囲に不審者がいないことを確認した上で素早く行い、撮影後はカメラをしまってください。ストラップを首に掛けたり手首に引っかけたりしていると、強引に引っぱられて転倒する危険性があるので十分注意してください。ビデオ撮影は安全が確保された場所以外では行わない方が無難です。スマートフォンの取扱いにも注意が必要です。
- ・人通りの多い場所・時間帯でも常に注意が必要です。

被害に遭ってしまった場合

（１）抵抗しないことが大原則。

路上で強盗に遭ったり、ホテルの部屋に侵入されたりした場合には、相手が子供であっても絶対に抵抗しないでください。犯罪者は必ず銃かナイフを持っている、または他に仲間がいることを想定して対応してください。

（２）犯人を刺激しない。凝視しない。

犯人は興奮しているので、大声を出したり、逃げる素振りを見せることは危険です。銃器が氾濫しているブラジルでは、犯人も命がけであり、被害者も何らかの武器を持っている可能性があると考えるので、相手に無断で上着の内ポケットに手を入れたりすると、銃を取り出そうとしていると勘違いされて発砲されることがあります。